

アートプロジェクト

未定

本芸術祭の本会期では、自身が日常生活でも移動に用いる車いすに乗り、初めて千葉市を訪れ、まちなかに滞在し、リサーチを行うことからプロジェクトを開始する。当事者性の高い体験を通して、千葉市内の移動やアクセシビリティの考察を行い、市民参加のワークショップを中心に実施する予定。檜皮氏のリサーチやプロジェクトの成果は、芸術祭のコア期間に常時展示し市民が鑑賞できるよう計画を進めている。車いすに乗るアーティストが「芸術祭」というスキームに参加することにより、芸術祭自体のアップデートが期待されるとともに、本芸術祭がより一層開かれた存在になるべく、チームと共にプロジェクトを実現していく。

檜皮 一彦

大阪府出身。京都芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻修了。身体性をテーマとした映像作品やパフォーマンス、自身も移動に用いる車いすを素材にしたインスタレーション作品「HIWADROME」シリーズをファーストラインに、旅やワークショップ、建築への介入を通してモビリティやアクセシビリティの考察と提案を行う「walkingpractice™」、ペインティングを中心とした「DRAWING EXPERIMENT」、車いす編み機による路面レコーディングプロジェクト「TRAIL by walkingpractice™」、「Electric wheelchair soundgenerator」を用いたノイズサウンドググなどを展開している。最近の展覧会「アブソリュート・チェアーズ」(埼玉県立近代美術館 / 埼玉、愛知県美術館 / 愛知 / 2024)、「MICUSRAT -MUSIC LOVES ART-」(中之島フェスティバルタワー / 大阪 / 2024)、「おかえり、ヨコハマ」(横浜美術館 / 神奈川 / 2025)、「Study : 大阪関西国際芸術祭」(EXPO 2025 大阪・関西万博会場夢洲 / 大阪 / 2025)

市民参加のかたち：ワークショップ・展示鑑賞

